

# NEWS

The Kyushu University Museum  
九州大学総合研究博物館ニュース

No.  
**38**  
September, 2022

## 公開講演会を行います

公開講演会「箱崎の歴史と九大総合研究博物館」(10月22日)を開催します。総合研究博物館では、箱崎サテライトの旧工学部本館に拠点を置く予定で将来計画を策定中です。講演会を通じ、歴史的建造物である旧工学部本館の建築史的な価値を明らかにします。一方、旧箱崎キャンパスには、元寇防塁を始めとする中世や近世の箱崎遺跡が存在します。箱崎の歴史的な意義を語るとともに、総合研究博物館の20年余りに亘る歩みを振り返ります。

総合研究博物館第9代館長 宮本 一夫



九州大学総合研究博物館第22回公開展示／大野城市市制50周年記念特別展示

# 九大のお宝、み～つけた

— 知のワンダーランドへようこそ —

米元 史織 開示研究系・助教

2022年7月16日から9月4日まで、大野城心のふるさと館で第22回公開展示を行いました。

本来は2020年に開催予定だった展示ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大とその対策のため延期され、ようやく本年度開催されました。当館の資料群の中でも、昆虫・化石・貝類・鉱物・鉱業関係・植物・動物骨格・はく製と自然史系資料を多数展示しました。さらに、歴史的什器を用いたフォトスポットを設置するなど楽しめる工夫や、ヘラクレスオオカブトのペーパークラフトの配布、分野の担当教員や専門研究員・大学院生によるイベントやワークショップも順次行いました。また、ふるさとラボでは今注目されている当館独自の取り組みである歴史的什器の在野保存も行っていきます。当館にとっては九州国立博物館での展示以来の沢山の分野が協力しておこなった大きな展示で、大野城心のふるさと館の方々にはたくさんのご配慮・ご協力をいただきました。

当館が所蔵する資料や標本は、九州大学創立以来の歴史の中で、様々な研究者が並々ならぬ情熱をもって収集してき

たコレクション群です。多様な分野があり、興味の持ち方や受け取り方も人それぞれだと思います。とはいえ共通するテーマもっています。それは、よく観察し、比べてみることで初めてわかることがある、というすべての学問に通じる基本姿勢です。モノを沢山、比べながらよく見ること、そうして初めて生じる疑問や気づきが確かにあり、それはとても得難い経験です。改定される博物館法の中で謳われる、ミュージアムが地域の核となるのも観光資源となるのも他のミュージアムと連携可能となるのも、博物館で行われるあらゆる活動の基層として、資料や標本を収集・保存・研究することがあります。沢山の標本や資料とその保存、それらを用いて行われてきた研究を通して、世界が広がるきっかけとなるような宝物が見つかることを願ってこれからも活動を続けていきます。来年度以降の公開展示や企画展示も楽しみにしてください。

① 会場の様子／② 2階骨格展示室／③ フォトスポット

## COLUMN①



### 『学研の図鑑LIVE 昆虫 新版』を出版

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

このたび、私が総監修をした昆虫図鑑が出版されました。この図鑑では、これまでの学習図鑑では最大の約2,800種を収録し、すべての種を生きたまま撮影・掲載しています。ご想像の通りの難事業で、30名を超える友人と知人で撮影隊を組み、

2021年の春から1年をかけて撮影を行いました。最終的には35,000枚、7000種を超える昆虫の写真が集まり、そのなかから選りすぐりの写真を掲載しました。さらに、昆虫の形態学や進化にも着目し、その点でも充実した解説を行いました。本図鑑の制

作には、九州大学の他の教員や多数の学生も参加・協力しています。研究業績というと英語論文ばかりが目立ちますが、このような事業も非常に重要な業績であり、研究成果の普及啓発としても極めて重要な意味を持ちます。



大野城心のふるさと館・夏の特別イベント

# 化石から分かる昆虫の歴史

大山 望 九州大学総合研究博物館・専門研究員



大野城心のふるさと館の夏の特別展の開催に合わせて「化石から分かる昆虫の歴史」と題して、実物化石を実際に観察してもらいながらお話をさせて頂きました。多くの方々に参加していただき、たくさんの質問も頂き私も研究に生かせるような新たな発見もありました。本稿では、その講演の一部をご紹介します。

私たちにとって身近な存在である昆虫ですが、実際に化石として観察する機会はほとんどないのではないのでしょうか。というのも、昆虫化石のほとんどが全長1~3cmで、1cm未満のものも珍しくなく、博物館で展示されていたとしても、あまり目に留まらないからかもしれません。そのため恐竜やアンモナイトのような大型の化石と比較して、身近すぎる昆虫が化石として保存されていることは知られていないことが現状です。しかし、そんな昆虫の化石は日本でも数多く見つかっています。たとえば、日本最古の昆虫化石産地として知られる山口県美祢市の三畳紀後期(約2億3000万年前)の美祢層群からは、4000点を超える昆虫化石が産出します。中でも、三畳紀に初めて出現するハチやハエが含まれていることは、昆虫の進化史を解明する上での重要な化石産地として、世界的に注目される点です。また、近年の研究で、福井県勝山市の白亜紀前期(1億2000万年前)の

手取層群北谷層からもゴキブリ類化石5種が報告されました。福井県の北谷層からはこれまで数多くの恐竜化石が報告されており(例えば、フクイサウルス・テトリエンシス *Fukuisaurus tetoriensis*, フクイラプトル・キタダニエンシス *Fukuiraptor kitadaniensis* など)、日本有数の恐竜化石産地として知られていましたが、実はその恐竜の足元には生態系を支える昆虫たちが多く生息していたことがわかりました。その他にも日本の中生代(三畳紀・ジュラ紀・白亜紀を含む時代)から少なくとも17地域の昆虫化石産地が知られています。これらの産地から発見されている昆虫化石の中には、まだ名前すらわかっていない昆虫化石が多く含まれています。さらに、新たな昆虫化石産地の開拓も進められており、今後日本独自の昆虫化石研究の発展が期待されます。皆さん博物館や化石採集に行かれる際は、恐竜やアンモナイトたちだけでなく、ぜひ昆虫化石に目を向けてみてください。想像以上に小さくて、でも美しい昆虫化石の魅力の虜になるはずです。



① ワークショップの様子 / ② 福井県のゴキブリ類化石たちの復元画。恐竜の足元に5種のゴキブリ類が隠れている(絵: ツク之助・監修: 大山望・今井拓哉・湯川弘一)

大野城心のふるさと館・夏の特別イベント

# スケッチで養われる「観察眼」

津守 玲 九州大学 生物資源環境科学府 環境農学専攻



今回の夏季特別展では、九大博物館が所蔵する、様々な動物の頭蓋骨や交連骨格標本が展示されました。その展示室を利用して、8月4・5日に「動物骨をスケッチしよう!」と題したワークショップを開催し、小・中学生やその保護者の方々にご参加いただきました。

気になったものを何でもスマホで撮影できる時代ですが、あえて時間をかけてスケッチをすることは、人々の「観察眼」を養うためにとても重要です。そこで、今回のワークショップでは、「上手く描こう」としすぎず、動物骨の特徴をよく「観察する」ということを唯一のルールとして設け、それ以外は自由にスケッチしていただきました。



元々骨に興味があった参加者は少なく、多くの人が「かっこいい」・「かわいい」・「描き易そう」という観点から描く骨を決めていました。しかし、描き進めるうちに、「ペンギンの足は折りたたまれている」・「食性で歯の形状が違う」・「頭蓋骨にたくさんの穴や縫合線がある」ことなどにそれぞれが気づき、その理由を考え、参加者間でその発見を共有していました。

このようにものごとを「観察する」ことで得られる気づきや疑問が、多種多様な研究の礎となります。皆さんもぜひ博物館の所蔵品に限らず、普段の生活で目にする様々なものを、スケッチするつもりでよく観察してみてください。その先にワクワクする発見が待っているはずです。

① ワークショップの様子 / ② レプリカを実際に触りながらライオンの頭蓋骨を観察する様子



## 特別展示

武谷椋亭生誕 200年記念 九州大学・大阪大学巡回展

## 緒方洪庵と武谷椋亭

赤司 友徳 大学文書館

2022年4月20日から6月19日まで、九州大学医学歴史館において特別展「緒方洪庵と武谷椋亭」を開催しました。本展覧会は、九州大学医学部の源流にあたる福岡藩医学校・養生館の設立に大きな役割を果たし、督学(校長)となった武谷椋亭(祐之)(1820-94)の生誕200年を記念した企画です。彼が師事した緒方洪庵(1810-1863)との関係とともに、二人の活動を通じて福岡藩の医療や医療行政がどのように行われたのかを紹介しました。具体的には、まずは緒方洪庵の業績に関して、近代医学の基礎となる解剖と種痘事業、西洋の医学書の翻訳事業、福岡藩主・黒田斉博や椋亭との交流に

ついて見ていきました。次に、椋亭の種痘事業や養生館の設立などから福岡藩の医事について紹介しました。また今回新たに附属図書館に寄託された武谷文庫のお披露目を兼ねて、武谷家にごさされた様々な地域史に関わる資料も展示しました。

コロナ禍のなかで延期を繰り返し、開催の実現には苦労をしましたが、大阪大学適塾記念センター、九州大学大学附属図書館、総合研究博物館、医学部同窓会、また武谷家のご支援・ご協力により充実した展示内容となりました。なおコロナの流行状況に柔軟に対応できるよう、附属図書館との共催で電子展示も行いました。



## 展示協力

## 夏の館外展示協力

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

北海道博物館 世界の昆虫 ● 2022年7月23日(土)~9月25日(日) / 大昆虫展 in 東京スカイツリー ● 2022年7月23日(土)~9月4日(日)

コロナ禍が一段落した…とは思えませんが、世間は通常通りの生活に戻ろうと努力しています。昨年まではほとんどの展示や講演等が中止に追い込まれていましたが、今年から各地で大規模な展示が再開されています。夏といえば昆虫展で、当館も毎年何かの展示を主催しつつ、各地で展示協力を行っています。今年は2つの大規模な展示に協力しました。

一つ目は北海道博物館の第8回特別展「世界の昆虫」で、これまでにない規模の標本を主体とした昆虫展です。本展示で展示されている700箱の標本箱のうち、当館の



烏山邦夫標本と丸山の個人コレクションの合計約100箱の貸し出しで貢献しています。

もう一つは、毎年協力していて、2年ぶりに再開した

東京スカイツリーの「大昆虫展」です。今年はより展示内容を充実させ、丸山が監修し、昆虫の多様性に関するさまざまな展示を行っています。そして烏山標本を中心に、当館から約50箱の標本箱を貸し出しています。



なお、営利目的の展示への貸し出しは決して無償ではなく、標本の維持管理に重要な標本箱の提供などをいただき、当館にも利益のある方針をとるようにしています。標本を貸し出すことによって、当館の存在を多くの方に知っていただくとともに、管理に必要な経費の負担を抑えることができます。

- ① 北海道博物館の丸山標本
- ② スカイツリーの烏山標本





第21回公開展示

# 野田榮コレクション

—大牟田産化石と九大標本でつむぐ大学博物館のいま—

伊藤 泰弘 開示研究系・准教授

今春2022年3月19日から5月8日まで「野田榮コレクション—大牟田産化石と九大標本でつむぐ大学博物館のいま—」と題し、第21回公開展示を大牟田市石炭産業科学館・企画展示室で開催しました。

野田コレクションは、大牟田市出身で小学校教師をされていた故野田榮氏が30年以上にわたり収集した化石コレクションで、石炭産業科学館に所蔵されています。大牟田地域からは新生代古第三紀始新世(約5600~3390万年前)の化石が数多く見つかっており、中でも野田コレクションは、勝立層を中心に1万点を越える膨大な数を有し、今では採集困難な上、新種化石も含むことから、地元にとっても学術的にも大変貴重なものです。現在、当館および兼任する理学研究院地球惑星科学部門・古生物学研究室が石炭産業科学館と連携して、野田コレクションの調査研究、デジタルアーカイブ化を進めています。

本展示は、これまでの成果をもとに、大牟田産化石についてどのような研究がなされ、今どのような研究が進められているのか、野田コレクションと当館所蔵のさまざまな

化石や貝類標本を並べて比較することで、一般の方にも分かりやすくなることを目指しました。展示空間づくりにもこだわり、「大牟田が昔は海だった」をコンセプトに、青を基調とし「海」がイメージできる空間を楽しんでもらえるよう工夫しました。また、九大の歴史的什器を活用するとともに、3DやAR、プロジェクションマッピングといった最新のデジタル技術を展示に応用してみるなど、まさに実験的な展示となりました。

これらの展示の構成や制作は、古生物学研究室の修士課程だった八田郁生さん(2021年度修了)を中心に地球惑星科学の学生・院生が主体となって進めました。さらに、共創学部にも参画してもらい、理学・共創のコラボが実現しました。特に空間づくりやタペストリーには共創学生のアイデアやセンスが発揮され、ふだんは古生物学的な視点から考えてしまう筆者にとって新鮮なものとなりました。

この大牟田公開展示は、リバイバル展示として再構成し、この秋に当館企画展示室にて開催する予定です。今度は、箱崎の方にもお越しいただければと思います。

## COLUMN②



### 職員会館寄贈絵画の整理と保存

林 史子 技術補佐員

2018年に職員会館から寄贈された絵画の整理を行いました。絵画は計8点で、1枚ずつ撮影し、情報があるものはその情報と共にデータにまとめました。絵画を保護する外箱などがない状態だったため、それぞれの絵画に

合わせてダンボールを切り貼りし、保護箱を作成しました。また、額縁の表面がほこりなどで汚れていたため、できるだけ綺麗にし、薄葉紙で包んでから、作成した保護箱に保管しました。絵画の大きさは様々で、二人掛け

でないと運べないものもあり大変な仕事となりました。

残念ながら現時点では詳細不明の作品が多いのですが、調査される日まで、できるだけ良い状態で保存されることを願っています。



フジイギャラリー グランドオープン記念展示

# 無にみつるもの

— Nothingness is Fullness, Fullness is Nothingness —

栗山 斉 芸術工学研究院 准教授 / 総合研究博物館 資料部 兼任教員



フジイギャラリーのグランドオープン記念として、「無にみつるもの」と題する個展が開催された。主に真空と光を素材とした芸術表現が展示され、私たちが見ている「無」と、見えていない「存在」、それぞれに意識を向けることが鑑賞者に促された。来場者には、作品を通して「無」という概念に多面的に触れることで、自身に生まれる想像力の広がりを楽しんでいただけたのではないだろうか。

今回の展示では、ネオン灯を用いた大型作品、銀塩フィルムを多数用いた作品、複数の北極星をテーマとするネオン灯の作品があり、それらの制作過程には多くの挑戦があった。活動拠点を福岡に移してまだ日も浅かったため、

制作環境を十分に整備できていない状態から作品制作に着手した。慣れない土地での活動には困難がつきものだが、同時にスリリングで面白いことも起こる。限られた時間のなか、足りない技術や知識がでてくる度に新たな人とつながり、個々の持つ能力やクリエイティブな発想を結集させながら、かたちにすることができた。

そうした創作過程にこそ、高い創造性があふれており、多くの化学反応が生じた。そして、そのような創造性は、さらなる創作へ向かう手がかりや力を与えてくれるものだと、今改めて感じている。本展の準備から運営に関わってくださった皆様に厚く御礼申し上げますとともに、フジイギャラリーの今後一層の発展を祈念する。

## フジイギャラリーのオープニングセレモニーを開催しました

吉田 明世 テクニカルスタッフ



5月11日(水)、フジイギャラリーのグランドオープンを記念して、オープニングセレモニーを開催しました。

セレモニーでは、石橋総長および総合研究博物館 宮本館長をはじめ、寄附者である藤井徳夫様からご挨拶がありました。また、昨年募集していたロゴマークについて、51作品の応募から大賞として選ばれたシンボルロゴの発表および大賞者である山崎千春様の表彰式を行いました。

フジイギャラリーの概要説明、学生代表コメントの後、藤井様や石橋総長等によるテープカットが行われ、参加者全員でグランドオープンを祝しました。

フジイギャラリーは、皆様の交流や越境を生み出すような「触発を促し、創造性を育む、発想する空間」を目指してまいります。

セレモニーにてお披露目となった山崎様のロゴデザ



②

インは「わかりやすく、覚えやすいロゴ」をコンセプトに制作されました。

### ● 山崎様の言葉

ギャラリーの特徴的な建物の形と、外観や館内の天井などに使われている木のイメージを「The Fujii Gallery」の文字と組み合わせています。様々な人が交流する場になるということで、多くの人に受け入れてもらえるよう癖のないシンプルなデザインに仕上げました。

伊原久裕芸術工学研究院教授による図案の微調整および和文組み合わせ版の作成を経て、2022年4月にロゴマークとして完成しました。

今後フジイギャラリーを広く周知するため、様々な媒体で活用していきます。

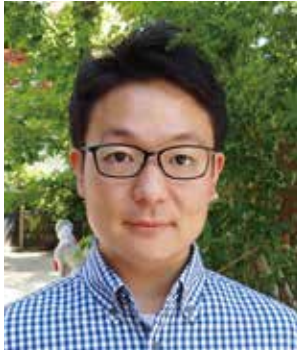
- ① セレモニーの様子
- ② ギャラリーのロゴマーク



新任教員による着任のご挨拶と研究紹介

# 着任のご挨拶

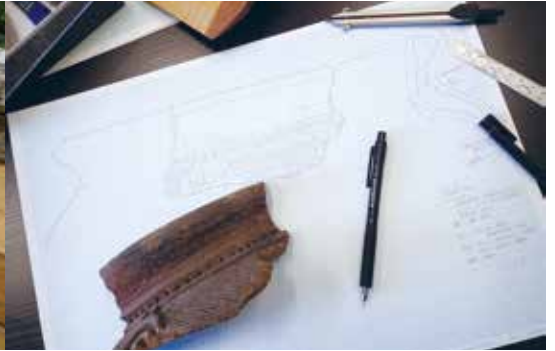
福永 将大 開示研究系・助教



▲ 福永 将大 助教



▲ 元寇防塁 発掘調査



▲ 加曾利貝塚(玉泉館資料)

2022年4月に、開示研究系の助教として着任しました、福永将大です。専門は考古学で、主に縄文時代の研究をしています。

みなさんが「縄文時代」と聞いてイメージするのは、青森県の三内丸山遺跡といった大きな集落や、複雑な造形をもった遮光器土偶や火炎土器ではないでしょうか。しかし、こうした物質文化が見られるのは東日本だけで、実は西日本では見られません。そもそも、縄文時代の遺跡の約8割以上は、東日本に存在しており、西日本ではとても少ないのです。このように、東日本のほうが、縄文時代の物質文化が量的・質的に充実していることから、「東高西低の縄文文化」と言われてきました。

私は、なぜ縄文時代の東日本と西日本において、これほどまで物質文化に違いが生じたのか。そして、そのような地域的な違いを示しながらも、これまで一つのまとまりとして語られてきた縄文文化・縄文社会とは、一体何なのだろうか、ということを明らかにすることを目指して研究をしています。

博物館に着任する前は、九州大学埋蔵文化財調査室に所属しており、箱崎キャンパス跡地で発掘調査をしていました。箱崎キャンパス跡地には、平安時代の終わりから現代にいたるまでの遺跡が存在しています。モンゴル襲来のときに築かれた元寇防塁をはじめ、鎌倉時代～江戸時代の生活の跡やお墓、さらに室町時代～戦国時代の火葬場の跡などが発掘調査で見つかりました。

九州大学がつくれる前に、箱崎の地ではどのような人々が住んでいて、どのような生活を送っていたのか。実はまだわかっていないことがたくさんあります。これまでの発掘調査の成果にもとづいて、いま研究を進めているところです。

九州大学総合研究博物館には、とても多くの考古資料が収蔵されています。それらはどれも学術的・学史的に貴重な資料ばかりで、まさに宝の山です。これらの最新の研究成果はもちろんのこと、これまで自身が発掘してきた箱崎キャンパス跡地の調査研究成果についても、みなさんに少しでも知ってもらえるよう、これから博物館の展示やイベントを通して、発信していきたいと考えています。

## COLUMN③



令和4年度 公開講演会開催!

### 箱崎の歴史と九大総合研究博物館

2022年10月22日に、令和4年度公開講演会「箱崎の歴史と九大総合研究博物館」を開催いたします。

九州大学箱崎キャンパス跡地では、大学創立期の歴史的建造物や博物館に所蔵されている貴重な学術標本・資料、そして、同エリア

の発掘調査で出土した元寇防塁など、多くの歴史文化資源が存在しています。これらを対象とした研究の最前線で明らかになってきた箱崎の歴史について、3名の講師からご講演いただきます。

また、九州大学建築史・都市史研究室のご協力のもと、最先端

福永 将大 開示研究系・助教

VR技術を用いて、今はなき箱崎キャンパスを再体験する、「甦る!箱崎キャンパスを歩こう!」も開催いたします。

会場は九州大学医学部百年講堂で、12時半より受付開始です(入場無料)。詳細情報は博物館ホームページをご確認ください。



## 博物館の活動記録

Activities of Exhibitions &amp; Conferences

## 特別展示

- 令和4年度特別展示武谷椋亭生誕200年記念九州大学  
大阪大学巡回展「緒方洪庵と武谷椋亭」  
期間○令和4年4月21日(木)～6月19日(日)  
場所○九州大学医学歴史館  
主催○九州大学医学歴史館、九州大学総合研究博物館、九州大学  
附属図書館、九州大学大学文書館、大阪大学適塾記念  
センター、適塾記念会、大阪大学総合学術博物館  
協賛○九州大学医学部同窓会  
協力○福岡県立図書館、福岡市博物館市史編さん室
- フジギヤラリーグランドオープン記念展示「無にみつもの」  
期間○令和4年5月11日(水)～7月29日(金)  
場所○九州大学伊都キャンパスフジギヤラリー  
主催○九州大学総合研究博物館  
共催○九州大学大学院芸術工学研究院
- 九州大学総合研究博物館2022年夏季企画展示  
「昆虫学ミニチュール」  
期間○令和4年8月18日(木)～10月31日(月)  
場所○九州大学伊都キャンパスフジギヤラリー  
主催○九州大学総合研究博物館、  
九州大学昆虫科学・新産業創生研究センター  
共催○箕面公園昆虫館、(株)学研プラス  
協力○伊丹市昆虫館  
協賛○8thCAL株式会社

## 公開展示

- 大野城市市政50周年記念特別展／九州大学総合研究博物館  
第22回公開展示  
「九大のお宝、み～つけた! 「知」のワンダーランドへようこそ」  
期間○令和4年7月16日(土)～9月4日(日)  
場所○大野城心のふるさと館  
主催○大野城心のふるさと館・九州大学総合研究博物館・  
大野城市・大野城市教育委員会  
共催○西日本新聞社

## サテライト展示

- 福岡県のクワガタ  
期間○令和4年2月24日～  
場所○糸島市立糸島市図書館二文館
- 福岡県のクワガタ  
期間○令和4年2月24日～  
場所○糸島市立伊都文化会館
- 福岡県の蝶  
期間○令和4年2月24日～  
場所○糸島市立志摩歴史資料館

## 講演会

- 「栗山齊アーティスト・トーク」  
日時○令和4年6月14日(火) 18～21時  
場所○椎木講堂1階ガレリア、フジギヤラリー  
主催○グローバルヤングアカデミー(GYA)、九州大学総合研究  
博物館フジギヤラリー、九州大学大学院芸術工学研究院
- 「箱崎の歴史と九大総合研究博物館」  
日時○令和4年10月22日(土) 13～17時  
場所○九州大学医学部百年講堂  
主催○九州大学総合研究博物館  
協力○九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部  
門建築史・都市史研究室

## 学外連携事業

- 「福岡ミュージアムウィーク2022」  
期間○令和4年5月14日(土)～22日(日)  
場所○参加各施設  
主催○福岡ミュージアム連絡会議(福岡市博物館、福岡市  
美術館、福岡アジア美術館、福岡県立美術館、福岡  
市埋蔵文化財センター、「博多町家」ふるさと館、  
はかた伝統工芸館、王貞治ベースボールミュージアム  
Supported by リポビタンD、九州大学総合研究博  
物館、九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、  
能古博物館、福岡市動植物園、福岡市文学館、ハク  
ハク、高取橋本家味染窯美術館、福岡女子大学美術館、  
福岡市科学館、チームラボフォレスト福岡-SBI証券)  
協力○博多リブレインモール、博多座、(公財)福岡市文化  
芸術振興財団、よかたい図書館共同事業体(福岡市  
総合図書館指定管理者)、福岡ミュージアム連絡会議  
事務局福岡市、経済観光文化局文化振興課

## 協力

- 第2回感性スタディーズカフェ  
「編集×博物館～集めたものから見えるコト～」  
日時○令和4年7月22日(金) 18～20時  
場所○九州大学総合研究博物館  
主催○感性スタディーズカフェ実行委員会  
協力○九州大学総合研究博物館
- 北海道博物館第8回特別展  
「世界の昆虫 ―昆虫を通して、生き物の多様性を知る―」  
期間○令和4年7月23日(土)～9月25日(日)  
場所○北海道博物館  
主催○「世界の昆虫」実行委員会(北海道博物館、北海道文化放送、  
北海道新聞社、一般財団法人北海道歴史文化財団)  
後援○北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会  
協力○北海道大学総合博物館、九州大学総合研究博物館、  
兵庫県立人と自然の博物館  
協賛○つうけんグループ

## 監修

- 「大昆虫展 in 東京スカイツリータウン」  
～知ってビックリ! 昆虫のすごい世界～  
期間○令和4年7月23日(土)～9月4日(日)  
場所○東京スカイツリータウン・ソラマチ5階「スペース634」  
主催○大昆虫展実行委員会(スポーツニッポン新聞社、共同  
通信社、TBSラジオ、BSテレビ東京、びあ、芸能座)  
後援○環境省、墨田区、墨田区教育委員会  
協賛○数島製パン  
監修○五箇公一(国立環境研究所 生物多様性領域生態  
リスク評価・対策研究室長)、丸山宗利准教授  
特別協力○東武鉄道、東京スカイツリータウン  
協力○アリスライフサイエンス、KADOKAWA、  
360メディア研究所、国立東京工業高等専門  
学校、玉川大学ミツバチ科学研究センター、  
TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校、内山昭一  
(昆虫食普及ネットワーク理事長)、河邊博康  
(崇城大学教授)、島田拓(アリ探求家、AntRoom  
代表)、じゅえき太郎(イラストレーター、漫画家、  
画家)、平井文彦(クリエイター、ネイチャービ  
デオグラファー)、法師人響(昆虫写真家)、  
政所名積(展覧工房)

## ワークショップ他

- 「九大跡地:上から見るか、横から見るか」  
日時○令和4年9月3日(土) 10～12時半  
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館  
ゲスト講師○五味伸之(劇団 GIGA)・加藤久美子  
企画・実施○九州大学大学院統合新領域学府 ユーザー感性  
学専攻 感性コミュニケーション PTLI/II 受講生  
主催○地域共創協学ミュージアム活動基盤整備実行  
委員会(中核機関:九州大学総合研究博物館)
- 松島校区30周年記念九大博物館×松島校区自治協議  
会共同プロジェクト「まちレター」  
期間○令和4年7月13日(水)～8月31日(水)  
主催○地域共創協学ミュージアム活動基盤整備実行  
委員会(中核機関:九州大学総合研究博物館)  
共催○松島校区自治協議会・松島公民館

## 運営委員会

- 運営委員会  
令和4年6月22日(書面)、8月22日(書面)

## 人事往来

- 令和4年4月1日付で、助教として福永 将大が着任しました。
- 令和4年6月30日付で、専門職員の大坪 豊和が退職しました。
- 令和4年8月1日付で、一般職員の末織 直子が着任しました。

総合研究博物館では2022年、新たに用途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下2つのご寄付を受け付けています。

## 『博物館活動充実基金』

◎当館は、本学の教育・研究・医療の歴史の中で収集された約155万点にのぼる貴重な標本・資料を管理し、新たな教育・研究へ活用するために尽力しています。皆様からのご寄付は、博物館活動をさらに充実させるとともに、今後の博物館の整備等に必要なる諸事業に活用いたします。

▼詳しくは総合研究博物館 HP をご参照下さい

【九州大学総合博物館:博物館活動充実基金(kyushu-u.ac.jp)】  
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>



用途特定寄附金

## 『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』

◎当館は、九大百年の歴史のエリアである箱崎サテライトにおいて令和9年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育プラントを令和5年に設置します。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。

▼詳しくは九州大学基金のHPをご参照下さい

【九州大学総務部同窓生・基金課基金係:総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】  
[https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cld=1558&amp;r\\_search=&mode=1&amp;page=1](https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cld=1558&amp;r_search=&mode=1&amp;page=1)

